

アートを楽しめる IFA をめざして

会長 福岡 茂

わかり易いアートの本質

スイスに偉い絵描きが出ない、国の人たちは絵が嫌いなのか？尋ねたら「みんな絵は大好き、しかし上手な絵描きがない」この話は司馬遼太郎とある医学者との対談で知ったことだ。景色がきれいだから窓の外が絵になる。それをあえて絵にしてもやり現実には適わない。スイスの山岳風景はカラー写真にはなるが、近代絵画の画材の対象にはなりにくいとの話した。話しをもう一つ、人間には{ステロイドホルモン}という、太陽系と同じリズムで活動するホルモンがあって、そのリズムに合わせると合理的な人間としての生活の営みができるらしい。明るいうちは生産性を高く？夜は情緒的に過ごす。やはり日の光で制作を日が落ちたら太陽系以外の月とか、他の星を見習う。秋は虫が鳴く、夜空には星がいっぱい、昼間話せない話が夜だからできる。

初秋を思わせる日を挟み、今年も緊張した連鎖が解かれ、関係していた方々も平素の生活に戻れたが、束の間の今をやはり再生産の場にせざるを得ないことも知らされた。

先日もある会合で、事務局が来年の出品要請をしていたがいまの快諾は殆ど当てにできないらしい。

もっと楽しめる IFA にしたい

今年のIFA展はお隣の平和展と同時に開催が不可能になり、入場者の減少が気になっていたが、去年以上の入場者に恵まれ安堵した。会全体の活性化を目的として今年は2名の作家を招いた。評価の高かった川口絃平氏にお願いし、今年も氏の佐伯祐三を期待していたが、全く大胆な発想の作品を見せて頂き、柔軟な発想力に脱帽した。同時に柳沢浩幸氏は川口絃平氏と対称的な柔らかな光と、大自然を意識した印象派主義を確立したモネの画風を彷彿させる作品、今後の活躍を期待したい。

今年の特徴は、佐藤一正氏が作家各々の個性を尊重され育んだ結果だと思うが、相対的にレベルアップされた。特に色彩を使用した作家が増えたのも、作品の厚みも増したし、佐藤氏もさらに意欲的な発想をお持ちなので楽しみです。皆さんが熱心に描いておられる実感が伝わってきました。

そして、数年前IFAでステンドグラスが工芸の主力の時代もあったが、今年を契機に今後も出展すると代表の村岡靖泰氏はコメントしてくれた。村岡靖泰氏は日本のステンドグラスの作家として既に著名な人で、先日もテレビで氏の神戸の工房が紹介された。

作品点数は減ったが評価が高かった写真部門

写真部門、私たちが幼かった時代、あるリッチな階層の人たちの趣味、芸術として限定された時代から、今日ドイツ技術を基礎に、日本が世界最高度のカメラが量産できるようになり、いたる所で作品を競える時代を迎えた。

奥隣の展示会場は100年の歴史をもつ名門の写真専門の会派、静かだが、コンタックスの匂いのする会派である。その出品者の数名が帰りに寄ってくれて、IFA写真部会に出品が可能か？質問されたが、評価の証として私は理解したい。

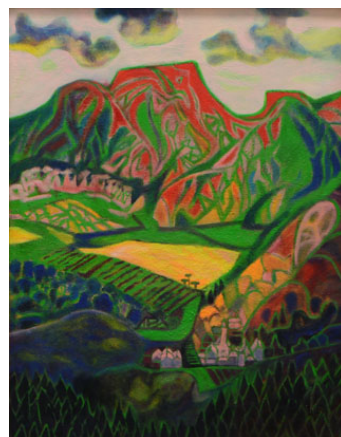
書道部門、やはり漢詩に不勉強な私を含め、難解である。もっと深く理解したい。たとえボールペンでもいいから簡単な詩の説明が欲しい。伊井進氏の「北原白秋の詩」水墨画と詩がよく調和し審査員全員の賛同を受けた。西田光碩氏の新たな書道への挑戦を確信できた。書道部門だけが本来のIFAの国際的な活動をしているが、できれば他部門で台湾、韓国とも交流をもちたい。事務局の負担軽減も平行して考えていくことが当然必要である。南房泰碩氏の出品感謝しております。

よい作品は苦しんでも生まれない

楠本美智子氏の作品は、いつもながら癒しを頂ける楽しい画風であり、独自の境地が定着しました。秋の季節が似合います。久しぶりにお返りになった瀬川照子氏はこれからが楽しみ。

私に助言して頂いた師匠の金言、巧い絵を描こうとするから、つまらない絵になる。人間の作品だから、自分が変わらなければ絵も変わらない、身にしみています。同時に自分のために描く、そう聞き直りますと、気負うともなくなり楽しく描く事に気がつきました。天才と凡人と同列にできない一人の凡人として楽しんで苦勞したい。日本全体が高齢化に悩んでいる。私もその一人だが、避けて通れない事実。誰も老いとの闘いは必ずやってくる。最初にIFAに出会った頃は、その前途に聞いてはいたが無頓着だった。

さて、その昔ムーランルージュは芸術家でいっぱい、人生と思ひ出と語らいこそがIFAのもうひとつの目的である。新地、駅前第二ビル前に森本理事が経営する77はわがIFA会員のみ特別価格で団欒できます。絵もいっぱい、もちろん歌もOKです。海外から参加して頂いた皆さん、有難う。戦争をしない国同士の井戸端会議でみましょう。台湾高雄からわざわざ来日して頂いた翁さん、謝謝。最後に事務局の諸氏に心からの御礼を。まだまだ言い残しているような気がしますが。



国東彩色
福岡 茂

受賞者代表の声

IFA 展を終えて

西田 光碩

このたび第 36 回国際 IFA 展覧会におきまして、栄えある大阪市立美術館奨励賞を受賞致しました。大変名誉なことであり、心よりお礼申し上げ、益々会発展のために尽力を決意するものであります。書道部門は理事である金原芳山先生等数人より出発し早 15 年、本年は出品者 20 人、出品点数 34 点、更に台湾より 10 点の友好出品を頂き堂々たる展示ができました。ひとえに関係各者、就中福岡会長、西谷事務局長はじめ皆様のご尽力の賜と満腔より感謝の意を表するものであります。

さて昨今の書道界は、日展などにみられる展覧会主義の弊害が蔓延しており、時代をリードする革新的な書への道は遠く閉塞感は否めません。そんな中であって、自由で創造性に富み、フレッシュな生命感を表現することに主眼を置く本展は、新たな芸術の突破口となることを確信してやみません。未熟な若輩者の大言壮語かもしれませんが、しかしそこに未来性を秘めた未完の心意気の潮流を起こそうと一剣を磨いている次第であります。

今回受賞しました拙書“不死鳥”は、最古の漢字であります亀甲獣骨文字、すなわち甲骨文が元になっております。昨年は飛び立たんとする不死鳥を表現した作品を出品しましたが、本年は空高く翔る不死鳥を、その風やまわりの空気も含め表現しようと試みました。温和しい、寂しいといった声もありましたが、静謐な白い空間の中で、揺れる羽に天空の風を感じたという作者の意図に合致したうれしい批評もありました。更に来年もこれに続き大空を乱舞する完結編を構想しております。

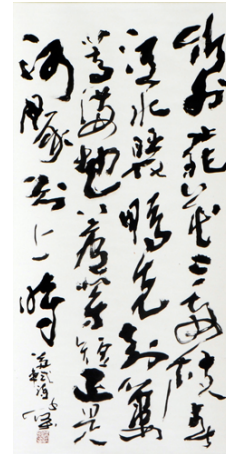
このように他の展覧会では入賞はおろか入選すら危うい新作の発表の場として、この展覧会は今や美術界にあって貴重な存在になっております。しかし、一つ間違えばレベルの低い、勝手気ままな展示になってしまうことも考えなければなりません。そうであってはならないし、またそうさせないために、真の芸術を求め、切磋琢磨と精進をお誓いし、益々の展覧会の発展を期するものであります。



大阪市美術館館長奨励賞
不死鳥
西田光碩



特選
旭
柳澤 浩幸



国際交流賞
蘇軾詩
莊宏亮



奨励賞
師走の昇魂式
桑原 孝一



新人賞
誕生
平沼 朋子

受賞者代表の声

IFA 展参加2年目の感想 佐藤 一正

昨年に続き、本年も IFA 国際美術協会展に佐藤絵画教室の参加へ道を開いていただき、誠にありがとうございました。その上、多数の受賞の栄誉を受けることができましたことに、生徒のみなさんを代表して心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

受賞者のみならず、IFA 本展に展示して頂けることは大きな目標となり刺激になっています。本展は自由な発想や個性を競う場であり、社会へ開かれている窓といえます。一般の出品作品とともに展示されることは、客観的に自作をみる機会であり、より個性的な作品を考える良い機会となります。

私は現在、5 絵画教室で多くの中高年のみなさんを指導させていただいています。

6 年前、私が絵画教室を始めた時には、絵を学んでみたいと願いながらも仕事に追われて叶わなかった方々を対象に、学校のように質の高い講座にしたいと考えました。指導者を仰がない絵画サークルでは飽き足らないという声を聞いていたからです。1 通りの知識が身につくようにと1年間のカリキュラムを考え、自信をもって講座を始めたのですが、なかなか思うような結果が見られません。楽しみたいだけだから、と教室を去る人もあり、一筋縄ではいかない現実を身をもって知らされました。しかしながら最近では基本をしっかり学びたい、との入会動機を書かれる生徒さんが多くなり、私自身も初心を忘れず、時間をかけて気長にお付き合いをしたいと思えるようになってきました。うれしいことに、結果が出ない悩みも杞憂だったと思えるほどに、目に見えて上達する方々が目立つようになり、5 年弱でやっと望んでいた循環になった気がしています。7 月に「くずはアートギャラリー」で開催しました佐藤絵画教室合同展では 1,300 人近くの方が足を運んでくださいました。

教室では色の作り方や補色の使い方、模写、構図、透視図法、ヴァルルール、黄金比などの専門知識を自作資料や実演を交えて指導するように心がけています。素人相手だからこの程度で良し、とする考えは私の理想に反することです。ありがたいことに情熱のある生徒さんに恵まれて、まず何よりも私自身が大きな目標となり、高い壁になりたいと精進する日々です。

教室で学ばれた方々が絵を通して自然観察に眼を開かれ、自由な発想を楽しみ、多くの交流が生まれ、そして自身を見つめなおして誇りをもてるようになって頂きたいと願っているのです。その一助になれたと思える瞬間こそが、私の指導者としての喜びでありプライドでもあります。

IFA 国際美術協会のますますのご発展を祈念しております。



産経新聞大阪本社賞
陽、風、水
佐藤 一正



奨励賞
東大寺修二会松明上堂
関川 詞之



亜東関係協会賞
アフロディシ阿斯
芝坂 忠雄



大阪市教育局委員会賞
葡萄棚の木の下で
近藤 志保

本年度（2014年）のIFA本展は、結果から言えば成功であったと申せましょう。

絵画については、出展数では昨年並から大きく増加したという事ではありませんが、2点の事が云えると存じます。第1点は、昨年より大型（100号）の作品が増えたことで展示に充実感が出ていました。今1点は、昨年度より参加頂いた佐藤教室の皆様の意欲的な出展が何よりも大きく貢献されたと存じます。内容的には、抽象画あり心象画ありで誠に変化のある、且つ制作意欲の旺盛さを感じる内容であったと存じます。

書道につきましては、毎年出展作品数が増加しており、内容的にも意欲的な大型の作品が多く充実感を与える展示が出来たと思います。書という作品は文字を墨で表現した芸術であり、一般にはその文字を読める事が不可欠であります。近年の作品は絵画と同様に抽象化、心象化が進んで墨の芸術とも云うべき作品も多くなってきた様に存じます。

工芸の部門では、昨年とは打って変わり本年はステンドグラスの作品が多数を占め、大変にぎやかな展示となりました。これは神戸の北野でアカデミーを開いておられる村岡先生の教室の方々のごぞって出展された結果であります。

作品としては制作者一人一人の個性と努力がにじみ出たものばかりでした。

引き続き来年度も新たな作品を出展頂けることを切に希望しています。

写真につきましては、全先生のご尽力により韓国の方々も昨年までは多数出展頂いたのでありますが、本年度は全先生の体調の関係もあり、日本国内の方々のみの出展となりました。出展数が減ったので誠に残念ではありましたが、国内の方々のご努力により内容的には芸術性豊かな作品が出展され充実感のある展示となりました。

以上の様な事で充実感のある展示会を行う事が出来たと思っています。

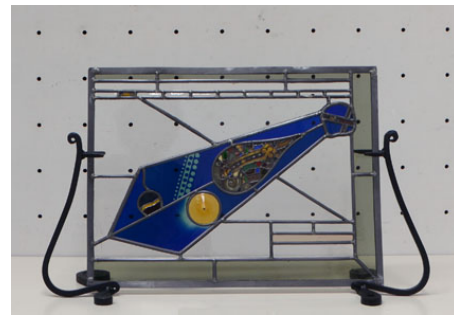
IFAの基本の理念・考え方という事について一言申し上げますとこのIFAに出展された絵画、書、工芸、写真、あらゆる作品はその制作された方々の心情の表れであり、心を表現したものであると存じます。よって一人一人の考えなり理念は異なるものであり、又その個々の人が製作するもまた10人10色であると存じます。この様な考え方を尊重して多くの人々に作品を出展頂いているのがIFA展であります。要するに自由闊達な芸術活動を奨励し、拡大していくことが私共の理念であると云えると存じます。

（過去3カ年の各部門別の出展数を事務局からのお知らせに掲載してあります）

皆様のご努力、ご協力に厚くお礼申し上げます。



神戸市教育委員会賞
よ・み・が・え・り
池本 きみ



兵庫県知事賞
For You
小野 富美子



SEASONS

～Spring～ ～Summer～ ～Autumn～ ～Winter～
草加 玲



リツフェルアルプの池より
マッターホルンを望む
堀 正幸



羊 牛 豚 像
招待作家 川口 絃平

IFA 展 2014 書道部門を振り返って 金原 芳山

今年の IFA 展は、アベノハルカスが完成した年の開催となりました。天王寺エリアの賑わいが、一段とレベルアップし、大阪市立美術館を取り巻く環境も、大きく変わるきっかけになったと感じています。美術館から見える通天閣も、大きな味方が現れたような趣きで、景色も一変しました。

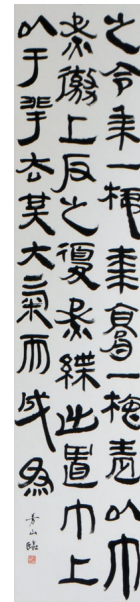
また、大阪市の公報を見ますと、来年度から、天王寺公園において民間の力を活用したパークマネジメントが始まるようです。天王寺公園に賑わいを作る一大プロジェクトだそうです。人が集まってくる仕掛けが出来るようですので、来年の IFA 展の開催時期には、来園者が増え、来場者数も増えているのではないかと、今から楽しみにしているところです。さて本題ですが、今年の書道部門は、新しい息吹が感じられる作品が出品されたと思います。伊井進さんの「北原白秋の詩」は、珍しく絵と文字のある作品でした。墨絵と漢詩。中国では古くからある作品の形式ですが、日本では、あまり公募展では見られません。その答えは簡単で、入選しないからです。一般の公募展では、書道会派ごとの「形式」という枠組みの中で作品が選ばれるわけですから、至極当然の成り行きだとも思います。

しかし、IFA 展では、枠組み以外の作品を、見ることも、出品することもできます。これは、IFA 書道部門の革新的な要素だと、密かに自負しているところです。その意味で、西田光碩さんの「不死鳥」もそうです。漢字の起源である甲骨文字をベースにした作品でしたが、これも、あまり公募展では見られないものです。私は、墨の色を二色使って「宮沢賢治 永訣の朝抄」を出品しました。賢治の思いを黒い墨で書き、妹の声を青い墨で書いたのですが、皆さんの心には、どのように映りましたでしょうか？

進取の気性に富んだ作品を発表し、そして、それが見る人の心を打ち、勇気と希望や、熱いものまでをも伝えることができるのであれば、IFA 書道部門の存在価値もあるのではないかと、と思っています。

また、大切な台湾和平書道学会の皆様の作品 10 点が、今年も海を越えて来ていただくことができました。たいへんな力作ばかりでした。日本の我々書道部門のメンバーに対して、もっと勉強して、もっといい作品を作りなさい！というメッセージが聞こえるぐらいに素晴らしい作品でした。この場をお借りしまして、衷心より感謝の意を表します。この友情の絆を、将来に向けて益々強くしていきたいと決意しています。

来年の IFA 展に向けて、また書道部門は精進して参りますので、今後ともどうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



虎溪山前漢簡臨
金原 芳山



会長特別賞
北原白秋の詩
伊井 進



大阪府知事賞
雲從龍風從虎
中山 広伸

“縮小しても表現の豊かさは変わらない写真部門”

佐野 弘

写真部門はIFA展第30回記念展をスタートとして、今回で7回目の展示となるが、残念ながら海外からの出展が無く、出展数が2／3程度となり展示スペースも半分となった。しかし作品の内容は以前にも増して充実したもので力作が揃った。

被写体は広い範囲に及び、自然風景、街角風景、水中風景、人物、動物、花火と裾野を広げ、更にまた表現の仕方も情景をしっかりと捉えたもの、表現を抽象化し謎を問うもの、描写をばかし秘めたる真意を訴えるもの等々と、見る者の心に入り込もうとする作者の意図がよく表現されている。

“写真であって写真に留まらない

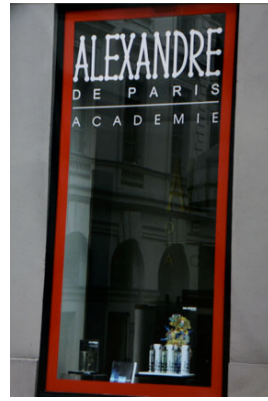
キャンパスフォト”

キャンパスフォト作品は、IFA展第30回記念展より参加した写真部門に合せて毎回参考的に出展していたが、この特異な作風に興味を持つ人も多く、「これは一体何ぞや？」と当番をしておられる事務局の方に質問を投げかけるケースが多く見受けられ、結構このキャンパスフォトを見る人達に訴えるものがある事が確認出来ていた。事務局の要請もあり、今回は準備期間が短く出展者は3名と少なくはあるが、協会に認知された状態で展示することとなり、7点の作品を展示した。

出展した作品は女性ダイバーによる水中風景、パリの水路をのどかに表現した作品、桜をテーマとして違った表現を試みた作品の計7点ではあるが、いずれもキャンパスフォトの特徴のよく出た作品ばかりで、奥行の深み、手前への飛出し効果がよく出ており、立体感豊かで、水中作品はいかにも魚が目の前で泳いでいる様に見え、パリの水路の作品はいかにも自分がその場に立って水路を見ている如く感じ、桜の作品にしても花が浮き出して枝を含めて3D効果が出ており、臨場感を十分に体験出来る作品と感じて頂けた模様である。

今回の写真部門は規模は小さくなったが、作品内容では以前の展示を十分に凌ぎ、見る人達に感動と驚きを与え魅了したものと信じている。

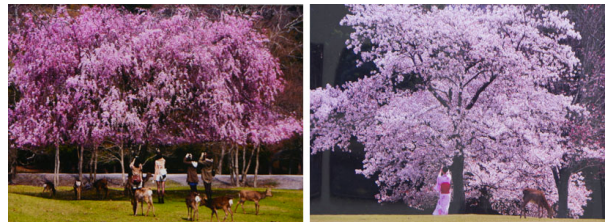
末尾ながら、今回何人かのキャンパスフォトクラブへの参入を決められた方がいる事をご報告をし、関係者の皆様に感謝の意を表します。



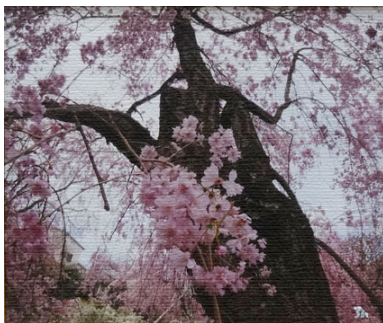
奨励賞
巴里の屋根の下
山本 延子



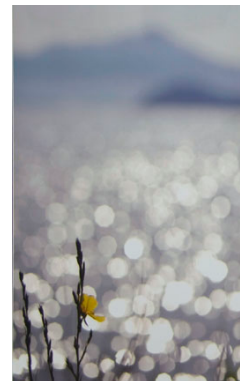
神戸市長賞
蒼き湖
佐治 はるみ



写真部門 特別賞
大和路万春1、2
小丸 尚子



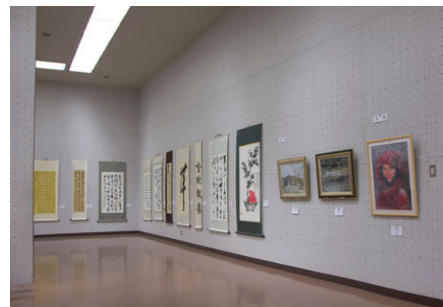
翁
キャンパスフォト
佐野 弘



台日文化経済協会
遙か伊吹山初夏
渡辺 千昭

2014 IFA展は、大阪市立美術館・地下展覧会室にて8月26日(火)～8月31日(日)まで開催致しました。今年は隣の第4室の利用が、平和展から研展（写真展）に変わりましたが約1200名の方々に観覧して頂いて無事終了しました。

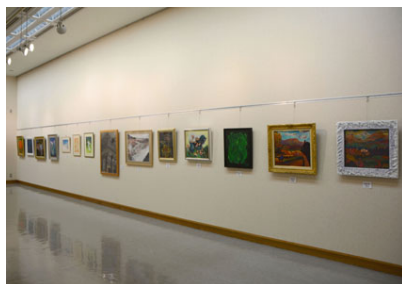
8月30日(土)の合評会は、例年どおり多数の出品者や観覧者の方々が参加され、部門外の作家との交流の場が広がった様です。引き続き、授賞式・懇親会では受賞者の皆様の喜びの感想を聞くことができました。また今年も台湾からの翁恵敏さんが参加され和気藹々と話しが弾みました。



2014 春期展

会期 4月16日～4月20日

2014 IFA春季展は、兵庫県立美術館分館「原田の森ギャラリー」にて4月16日(水)～4月20日(日)まで開催しました。今回で3回目となりましたが、小品から大きな作品までいろいろ展示され、ゆったりとした空間を楽しんで頂けたと思います。ご来場下さいました方々に感謝申し上げます。



海外作家の展覧会

台湾人女性写真家作品展

日程 10月5日(火)～10月11日(土)

場所 BURIEZE BURIEZE(ブリーゼブリーゼ)5階 最寄り駅 地下鉄西梅田駅、JR大阪駅西口

時間 11:00～21:00 (最終日は19時まで)

事務局からのお知らせ

過去3ヶ年出品数経緯

部 門	2012 年	2013 年	2014 年
絵 画	26	29	29
佐藤教室	0	33	30
工 芸	5	7	18
書 道	27	31	34
台 湾 (書道)	11	10	10
写 真	45	44	53
韓 国 (写真)	24	9	0
合 計	148 点	164 点	165 点



IFA 国際美術協会・事務局

IFA 国際美術協会 〒553-0002 大阪市福島区鷺洲 4-3-23-1201 電話 Fax 06-6454-0590